

邑楽館林地域におけるリン酸過剰の 施設キュウリほ場では基肥リン酸を無施肥にできる

研究のねらい

邑楽館林地域の施設キュウリ栽培ではリン酸過剰のほ場が多く、持続性の高い農業を実現するための適正施肥が課題となっています。

有機配合のリン酸を含まない専用銘柄が開発されたことから、それを用いた実証試験を東部地域研究センターで実施しました。

技術の特徴

- 1 前作終了後に土壌分析を行い、土壌中のリン酸が約 300mg/100g のほ場では、リン酸を含まない専用銘柄を基肥に用い、5作すべて、総収量、A品収量ともに慣行施肥と同等の収量が得られました（図1）。

追肥は慣行どおり施用しました。

- 2 本技術は、灰色低地土など沖積土のほ場（水田からの転換畑など）が対象です（図2）。
- 3 総収量が 20 t /10 aより極端に多くなる場合は肥料が不足することがあるので注意が必要です。
- 4 リン酸を含まない銘柄には窒素に対してカリの成分比が低い商品があるので、カリが不足しないようにして下さい。

今後の取り組み

環境制御機器の導入が進んできており、その条件に適した施肥水準等を明らかにしていきます。

（執筆者：長浜 ゆり）

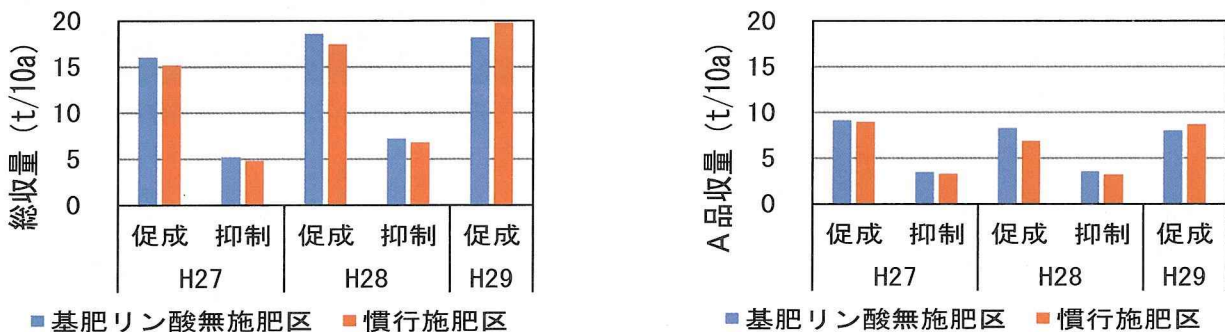


図1 実証試験における総収量及びA品収量の推移

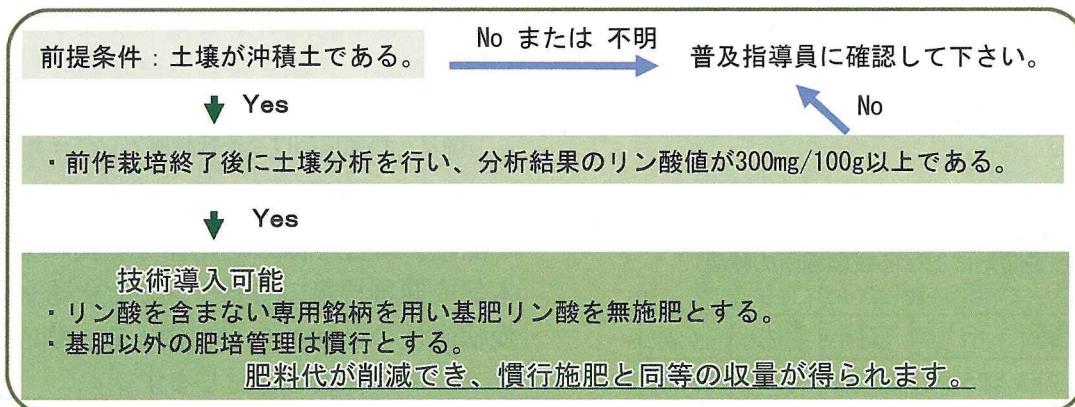


図2 技術導入の流れ